

IBDの病態解明に向けて：
炎症性腸疾患からの発癌過程における Activation-induced cytidine deaminase (AID)の関与

研究分担者 千葉 勉 京都大学大学院医学研究科消化器内科学講座 教授

研究要旨：炎症性腸疾患、特に難治性潰瘍性大腸炎の長期罹患に伴う合併症として、最も問題となるのは大腸発癌 (Colitis-associated colorectal cancer: 以下 CAC) である。この炎症性腸疾患からの発癌過程においては、早期から p53 遺伝子変異が高頻度に認められているが、遺伝子変異生成そのものの分子機序については不明のままであった。我々は、CAC 発生過程における遺伝子変異生成分子として、遺伝子編集酵素 Activation-induced cytidine deaminase (以下 AID) に着目している。AID は DNA に遺伝子変異を導入する作用を有し、生理的条件下では活性化された B 細胞においてのみ発現しており、免疫グロブリンの変換領域に高頻度に遺伝子変異を導入し、抗体の多様性獲得に寄与している。最近、我々は AID が様々な消化器系臓器の炎症性発癌における遺伝子変異生成に関わる重要な分子であることを報告しており、同様の機序が CAC 発症にも関与していると考え、検討を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。①臨床検体を用いた AID の免疫染色では、正常上皮細胞ではその発現を認めない AID が、炎症を伴った潰瘍性大腸炎の大腸上皮細胞、潰瘍性大腸炎を背景に発生した癌組織中において高発現していた。②ヒト大腸上皮細胞においては、炎症性サイトカイン刺激により、AID が異所性に発現誘導された。③ヒト大腸上皮細胞において、AID を過剰発現させた結果、p53 遺伝子に変異を生じた。以上の結果から、炎症性腸疾患からの発癌機構において、AID が炎症を契機として異所性に発現誘導され、その遺伝子変異活性を介して発癌関連遺伝子に変異を誘導することが明らかとなり、AID が CAC 発症の一因を担っていると考えられる。

A. 研究目的

炎症性腸疾患、特に難治性潰瘍性大腸炎 (UC) の長期罹患に伴う合併症として、最も問題となるのは大腸発癌 (Colitis-associated colorectal cancer: CAC) である。CAC の発生は UC 症例でも全大腸炎型、長期罹患患者に多く認められ、罹患期間に比例して発癌のリスクが増すことが良く知られている。CAC からの発癌機序は、Adenoma-carcinoma sequence の発現形式をとる散発性大腸癌とはその性質を異にし、早期から p53 遺伝子変異を来すことが知られているが、その生成の分子機序については不明のままであった。

そこで、我々が着目しているのが、遺伝子編集酵素 Activation-induced cytidine deaminase (AID) である。AID は Cytidine deaminase 活性を持ち、DNA に遺伝子変異を導入する作用を有することが知られている。AID は生理的条件下では、活性化された B 細胞においてのみ発現し、免疫グロブリン遺伝子の可変領域に高頻度に体細胞突然変異を導入することにより、抗体の多様性獲得に寄与している。しかし、AID の異常発現とリン

パ系悪性腫瘍との関連が報告されるようになり、また、AID を全身に恒常的に発現するマウス (AID トランスジェニックマウス) では全例にリンパ腫が発生するなど、AID による遺伝子変異生成がヒトのリンパ系悪性腫瘍の発生から進展に関与していると考えられるようになってきた。さらに AID トランスジェニックマウスの解析を進めると、リンパ腫以外に、上皮系悪性腫瘍の発生を認めたことから、AID がその遺伝子変異活性を介して、リンパ系悪性腫瘍のみならず、上皮系悪性腫瘍の発生に関与していることが示唆されたのである。

リンパ球と異なり、上皮系組織では通常は AID の発現を認めない。しかし、我々は、AID が様々な消化器系臓器の炎症性発癌における遺伝子変異生成分子であることを報告している。AID が炎症下では異所性に発現誘導されることが、C 型肝炎ウイルス感染を伴う慢性肝炎からの肝発癌過程において、ヘリコバクター・ピロリ一菌感染を伴う慢性胃炎からの胃発癌過程において、明らかとなった。すなわち、正常な肝細胞、胃上皮細胞では AID の発現を認めないにも関わらず、炎症性サ

イトカイン刺激や、ウイルス感染により AID が異所性に発現誘導されたのである。以上のことから、CAC 発症においても AID の関与が疑われ、ヒト大腸上皮における AID の発現制御機構を中心に研究を行った。

B. 研究方法

1. ヒト AID に対する特異的抗体を用いて、臨床検体の免疫染色を行い、大腸上皮組織における AID の発現の有無の確認を行った。正常大腸組織 5 症例、UC 組織 22 症例、UC 関連腫瘍 15 症例を用いた。
2. 炎症細胞における AID 発現の分子機序を解析する目的で、UC の大腸上皮組織で発現が上昇している炎症性サイトカイン Tumor-necrosis factor (TNF)- α に着目した。ヒト大腸癌細胞株に対して、TNF- α 刺激を行い、AID の発現制御機構の解析を Real time PCR 法、Western blot 法で行った。
3. UC の病態形成に重要な役割を果たしている Th2 サイトカインである interleukin (IL)-4, 13 に着目し、ヒト大腸癌細胞株に IL-4, IL-13 刺激を行い、AID の発現制御の解析を Real time PCR 法、Western blot 法で行った。
4. ヒト大腸上皮細胞における AID の遺伝子変異活性の有無の解析を行った。大腸上皮細胞に AID を 8 週間過剰発現させたのち、細胞から DNA を回収し、各種癌関連遺伝子の塩基配列を解析し、遺伝子変異の有無の確認を行った。

C. 研究結果

1. 臨床検体を用いた AID の免疫染色では、5 例の正常大腸粘膜上皮では内在性 AID の発現を認めないにも関わらず、潰瘍性大腸炎組織、潰瘍性大腸炎を背景に発生した癌組織の上皮細胞では AID が高発現していることが明らかとなった。潰瘍性大腸炎症例 22 例のうち 12 例 (54%) で AID が高発現しており、潰瘍性大腸炎関連腫瘍 15 例では 12 例 (80%) で AID が強陽性であった。
2. まず、ヒト大腸癌細胞株に対して、TNF- α 刺激を行ったところ、AID が発現誘導されることが確認された。次に、TNF- α シグナルの下流の転写因子であ

る NF- κ B 特異的阻害作用を有する I κ B α を強発現させたところ、TNF- α 刺激により誘導される AID 発現が抑制されることが明らかとなった。以上のことから、ヒト大腸上皮細胞において AID は炎症性サイトカイン TNF- α により発現誘導され、この炎症刺激による AID 発現は NF- κ B 依存性であることが明らかとなった。

3. ヒト大腸癌細胞株に Th2 サイトカインである IL-4, IL-13 刺激を行ったところ、AID が発現誘導されることが確認された。IL-4, IL-13 の下流の転写因子である STAT6 を抑制すると、IL-4, IL-13 による AID 発現が抑制された。以上のことから、大腸上皮細胞における IL-4, IL-13 刺激による AID 発現は、STAT6 依存性であることが明らかとなった。
4. 大腸上皮細胞における AID の遺伝子変異の有無を解析する目的で、まず、大腸上皮細胞に、AID を過剰発現させ、各種癌関連遺伝子への遺伝子変異の有無の解析を行ったところ、*p53* 遺伝子には遺伝子変異を生じたが、*APC*, *K-ras* 遺伝子には変異は認められなかった。これは、ヒト大腸上皮細胞に発現した AID が、*p53* 遺伝子により特異的に変異を導入している可能性を示唆するものである。

D. 考察

本研究により、生理的条件下では上皮系細胞においてその発現を認めない AID が、UC で活性化している炎症性サイトカイン TNF- α や Th2 サイトカインにより異所性に大腸上皮細胞に発現誘導され、その結果 *p53* 遺伝子変異を導入しているという、新しい発癌の分子機序が想定された。AID が炎症性発癌における遺伝子変異生成に関わる分子であることは、慢性炎症を背景とした胃発癌、肝発癌でもすでに報告しているが、今回は潰瘍性大腸炎発生において重要な Th2 サイトカインにより AID が誘導されることが初めて証明された。今後は、UC のみならず、従来考えられていた以上の高頻度で発癌をみる、クローン病での AID 発現の有無の検討を行う必要もあろう。

CAC からの発癌は、早期から *p53* 遺伝子変異が高頻度に認められるのが特徴である。ヒト大腸上皮細胞にお

いて、AID 過剰発現下で、なぜ *p53* 遺伝子により特異的に変異が導入されるのかは、今のところ不明である。ただ、AID は転写依存性に遺伝子変異を導入することが知られており、転写レベルの高い遺伝子ほど変異を入れやすい傾向にあることが報告されている。事実、今回実験に用いた大腸癌細胞株では、*p53* 遺伝子の転写レベルは、*APC*、*K-ras* などの他の癌関連遺伝子と比較して、高いことが明らかになっている。

近年、日本でも UC 患者数の増加、サーベイランスの徹底により、CAC 患者数が増加することが予想され、今後はこの発癌機構からの臨床応用への可能性について検討を行う必要がある。

E. 結論

以上の知見より、AID が炎症を契機として大腸上皮細胞内に発現誘導されること、その結果 AID の DNA 編集活性により *p53* 遺伝子に変異が生成・蓄積することが明らかとなり、AID が CAC 発症に深く関与している可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Inoue S, Nakase H, Matsuura M, Mikami S, Ueno S, Uza N, Chiba T: The effect of proteasome inhibitor MG-132 on experimental inflammatory bowel disease. *Clin Exp Immunol* 2009(in press).
2. Matsumura K, Nakase H, Yamamoto S, Yoshino T, Takeda Y, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Chiba T: Modulation of the Th1/Th2 balance by infliximab improves hyperthyroidism associated with flare-up of ulcerative colitis. *Inflamm Bowel Dis* 2009 (in press).
3. Takeda Y, Nakase H, Chiba T: Up-regulation of T-bet and tight junction molecules by */Bifidobacterium longum/* improves colonic inflammation of ulcerative colitis: *Inflam*

Bowel Dis 2009 (in press).

4. Kuwabara A, Tanaka K, Tsugawa N, Nakase H, Tsuji H, Shide K, Kamao M, Chiba T, Inagaki N, Okano T, Kido S. High prevalence of vitamin K and D deficiency and decreased BMD in inflammatory bowel disease. *Osteoporos Int*. 2009(in press).
5. Yamamoto S, Nakase H, Takada M. Clinical Challenges and Images in GI: Relapsing polychondritis in ulcerative colitis. *Gastroenterology* 2009(in press)
6. Nakase H, Mikami S, Chiba T: Alteration of CXCR4 expression and Th1/Th2 balance of peripheral CD4 positive T cells can be a biomarker for leukocytapheresis therapy for patients with refractory ulcerative colitis. *Inflamm Bowel Dis* 2009 (in press).
7. Matsumoto T, Iida M, Motoya S, Haruma K, Suzuki Y, Kobayashi K, Ito H, Miyata M, Kusunoki M, Chiba T, Yamamoto S, Hibi T: Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: A Japanese multicenter survey. *Dis Colon Rectum* 51:916-923, 2008.
8. Uza N, Nakase H, Ueno S, Inoue S, Mikami S, Tamaki H, Matsuura M, Chiba T: The effect of medical treatment on patients with fistulizing Crohn's disease: our experience with a retrospective study. *Intern Med* 47:193-199:2008.
9. Endo Y, Marusawa H, Kou T, Nakase H, Fujii S, Fujimori T, Kinoshita K, Honjo T, Chiba T: Activation-induced cytidine deaminase links between inflammation to colitis-associated colorectal cancers. *Gastroenterology* 135:889-898:2008.
10. Yoshino T, Nakase H, Mikami S, Nio M, Ueno S, Uza N, Ohmori K, Manabe T, Chiba T: Importance of diagnosis of concomitant cytomegalovirus

infection in patients with intestinal Behcet's disease. *Inflamm Bowel Dis* 14:877-878:2008.

11. Yamamoto S, Nakase H, Mikami S, Inoue S, Yoshino T, Takeda Y, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Kitamura H, Tamaki H, Matsuura M, Inui K and Chiba T: Title: Long-term effect of tacrolimus therapy in patients with refractory ulcerative colitis. *Aliment Pharmacol Therapeutics* 28: 589-597, 2008.
12. Mikami S, Nakase H, Yamamoto S, Takeda Y, Yoshino T, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Oishi S, Fujii N, Nagasawa T, Chiba T: Blockade of CXCR12/CXCR4 axis ameliorates murine experimental colitis. *J Pharmaceut Exp Therapeut* 327:383-392:2008.
13. Tamaki H, Nakase H, Matsuura M, Inoue S, Mikami S, Ueno S, Uza N, Kitamura H, Kasahara K, Chiba T: The effect of tacrolimus (FK-506) on Japanese patients with refractory Crohn's disease. *J Gastroenterol* 43:774-779:2008.
14. Nakase H, Matsumura K, Yoshino T, Chiba T: Systematic review: cytomegalovirus infection in inflammatory bowel disease. *J Gastroenterol* 43:735-740:2008.
15. Takeda Y, Nakase H, Mikami S, Inoue T, Satou S, Sakai Y, Chiba T: Possible link Between Ulcerative Colitis and In situ Adenocarcinoma of an Appendiceal Mucocoele: Importance of Inflammation in the Appendiceal Orifice Related to UC. *Inflam Bowel Dis* 14:873-874:2008.
16. 仲瀬裕志, 千葉 勉: 炎症性腸疾患の治療 知っておきたい炎症性腸疾患の合併症とその治療 皮膚、関節病変、肛門部病変の診かた. *Medicina* 45(5):833-838:2008.
17. 仲瀬裕志, 千葉 勉: 消化器疾患(炎症性腸疾患), 炎症と免疫 16(3):299-303:2008.

2. 学会発表

1. Shuji Yamamoto, Hiroshi Nakase, Satoko Inoue,

Sakae Mikami, Norimitsu Uza, Satoru Ueno, Tsutomu Chiba: Long-Term Outcome of Treatment with Tacrolimus Therapy in Patients with Ulcerative Colitis. *Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute, San Diego(U.S.A.)*, 2008. 5. 17.

2. Takuya Yoshino, Hiroshi Nakase, Shuji Yamamoto, Yasuhiro Takeda, Katsuhiko Kasahara, Satoru Ueno, Norimitsu Uza, Sakae Mikami, Tsutomu Chiba: The Involvement of Cytomegalovirus in Patients with Intestinal Behcet's Disease. *Digestive Disease Week and the 109th Annual Meeting of the AGA Institute, San Diego(U.S.A.)*, 2008. 5. 17.
3. 三上貴生, 秋武玲子, 上野哲, 宮本心一, 千葉 勉: 下痢・下血・発熱の原因がメサラジンの薬剤性アレルギーであった潰瘍性大腸炎の一例. *日本消化器病学会近畿支部第90回例会*, 大阪, 2009. 2. 14.
4. Watanabe Tomohiro, Asano Naoki, Chiba Tsutomu, Strober Warren: Muramyl Dipeptide Activation of NOD2 Inhibits Multiple Toll-like Receptor Pathways via Induction of IRF4. 2008 日本免疫学会総会・学術集会, 京都, 2008. 12. 1.
5. 遠藤容子, 丸澤宏之, 木下和生, 高 忠之, 藤井茂彦, 藤盛孝博, 千葉 勉: 炎症性腸疾患からの大腸発癌過程における Activation-induced cytidine deaminase (AID) の役割. 第67回日本癌学会学術総会・ワークショップ, 名古屋, 2008. 10. 28.
6. 玉置将司, 三上 栄, 上野 哲, 秋武玲子, 仲瀬裕志, 千葉 勉: 大腸全摘後に十二指腸炎および小腸炎をきたした潰瘍性大腸炎の1例. *日本消化器病学会近畿支部第89回例会*, 大阪, 2008. 9. 27.
7. 渡邊裕裕, 千葉 勉: NOD2の活性化を用いたクローン病の新たな免疫制御療法. 第45回日本消化器免疫学会総会, 京都, 2008. 7. 3.
8. Tomohiro Watanabe, Naoki Asano, Tsutomu Chiba, Warren Strober: Muramyl Dipeptide Activation of Nucleotide Binding Oligomerization Domain 2 Protects Mice from Experimental Colitis. 13th

US-Japan GI&Liver Meeting in 21st Century, 東京, 2008. 6. 13.

9. 武田康宏、仲瀬裕志、千葉 勉: IL-10 は分子シャペロン Hsp47 の発現を制御し、腸管炎症に伴う線維化を抑制する。第94回日本消化器病学会総会, 福岡, 2008. 5. 8.

H. 知的所有権の取得状況

該当なし。

大腸上皮において IL-8 が HB-EGF 前駆体の細胞内ドメインを介して
転写抑制蛋白 PLZF を制御する機序と意義

研究協力者 城 卓志 名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学 教授

研究要旨： EGF リガンドの放出と同時に核移行する EGF 前駆体の細胞内ドメイン (CTF) が引き起こす EGF シグナルを消化管上皮において網羅的に検討した結果、大腸に発現の高い PLZF に着目し、HB-EGF の細胞内ドメインが PLZF を制御し細胞増殖をコントロールする機序と意義につき明らかにした。

共同研究者

佐々木誠人¹、谷田諭史¹、片岡洋望¹、東山繁樹²

¹名古屋市立大学大学院医学研究科消化器・代謝内科学、²愛媛大学大学院生化学分子遺伝分野

A. 研究目的

IBD の臨床において、慢性炎症の長期間持続後に大腸がんの発生が問題となっている。しかし、その発がんのメカニズムは、十分に解明されておらず、明らかにしていかなければならない重要な課題である。近年、大腸がんの増殖、進展のメカニズムに IL-8 による EGFR 活性化がかかわっていることが指摘されている。そこで今回我々は、がん遺伝子であり、発がん、進展を制御し分子標的治療にも応用されている EGF に着目した。炎症性サイトカイン (IL-8: GPCR agonist) は、好中球遊走促進などで消化管炎症の病態で重要な役割を演ずるとともに、細胞増殖作用を持つ。膜型メタロプロテアーゼ (ADAM) が EGF 受容体 (EGFR) リガンドを放出させた後 EGF 受容体 (EGFR) は、リン酸化すると同時に、HB-EGF C 末端が、核移行し転写因子として働くことが明らかになった。HB-EGF C 末端が、核移行したあと、DNA に結合しているレプレッサーである PLZF を核外にくみ出すこと

も明らかになった。しかしながら、IL-8 による EGFR の活性化および HB-EGF C 末端核内移行機序について

は明らかでなく、HB-EGF C 末端核内移行のメカニズムが IL-8 による細胞増殖に関与しているかどうかを検

討した。

B. 研究方法

大腸癌細胞 (HT-29) を使用した。IL-8 による細胞増殖は、日毎に細胞数を数え、細胞増殖カーブで検討した。IL-8 にて刺激後 EGFR リン酸化を調べ、ADAM 阻害剤、内因性 ADAM10, 12, 17 欠失による EGFR リン酸化阻害効果を調べた。ヒト耐熱性アルカリフォスファターゼで標識した EGF リガンド発現プラスミドを使って安定的に発現する細胞株を作製し、IL-8 にて HB-EGF 放出を調べた。HB-EGF C 末端の核内移行および PLZF 核外移行は、蛍光免疫にて検討した。HB-EGF C 末端の下流にある c-Myc 蛋白の発現を IL-8 にて刺激後 Western 解析にて検討した。

(倫理面への配慮)

該当しない。

C. 研究結果

IL-8 の刺激により、細胞増殖は亢進した。IL-8 は、EGF リガンド放出、EGFR のリン酸化および HB-EGF C 末端核移行を惹起した。HB-EGF C 末端核移行後 PLZF は、核外に排出された。それらは、ADAM 阻害剤にて阻害できた。また、ADAM10 の欠失により、IL-8 による EGFR リン酸化が抑制された。さらに IL-8 は、c-Myc 蛋白発現を増加させた。それは、EGF C 末端核移行を阻害する ADAM 阻害剤および EGFR リン酸化阻害剤にて抑制された。

D. 考察

IL-8による細胞増殖は、EGFRリン酸化およびHB-EGF-C末端が核内移行し転写抑制遺伝子PLZFの抑制が外れた後、がん遺伝子であるc-Mycを介した機序によるものと考えられる。

E. 結論

HB-EGF-C末端の核内移行による転写抑制蛋白PLZFの制御は、炎症から大腸粘膜上皮細胞の増殖、進展に対し、新たな治療戦略になりうると考えられる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Oshima T, Miwa H, Joh T. Changes in the expression of claudins in active ulcerative colitis. J Gastroenterol Hepatol. Suppl 2:S146-50. 2008.

2. 学会発表

佐々木誠人、水島隆史、城 卓志・オリゴ糖生成酵素を用いた炎症性腸疾患予防の試み・JDDW2008・東京・平成20年10月

城 卓志、谷田論史、片岡洋望、佐々木誠人、小笠原尚高、神谷 武・IL-8が誘導する新しいEGFシグナルと大腸癌・第67回日本癌学会学術総会・名古屋・平成20年10月

佐々木誠人、城 卓志・eNOS遺伝子多型(-786T>C)は潰瘍性大腸炎の予後予測因子である・第61回日本酸化ストレス学会学術集会・京都・平成20年6月

谷田論史、佐々木誠人、片岡洋望、小笠原尚高、久保田英嗣、和田恒哉、志村貴也、溝下 勤、村上賢治、平田 慶和、水島隆史、海老正秀、馬淵元志、田中守、神谷 武、城 卓志・炎症性サイトカインによるEGF受容体リガンドC末端を介した細胞増殖機序・第45回日本消化器免疫学会総会・京都・平成20年7月

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧（書籍）

執筆者氏名	論文題名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
有村佳昭, 今井浩三	炎症を母地とする発癌	渡辺 守	BIO Clinica	北隆館	東京	2008	1194-1198
渡邊修平, 有村佳昭, 細川雅代, 田中浩紀, 藤村恭久, 今井浩三	11. 炎症性腸疾患の病理・病態生理 3. 遺伝的背景	藤山佳秀	日本内科学会雑誌	日本内科学会	東京	2008	18-24
中垣卓, 細川雅代, 有村佳昭, 今井浩三	第二部 炎症性腸疾患をめぐる最近の話題 5. 炎症と発癌における骨髄の役割	武藤徹一郎	大腸疾患NOW2009	日本メディカルセンター	東京	2008	173-176
那須野正尚, 今井浩三	7章-10 炎症性腸疾患における癌化機序	日比紀文	炎症性腸疾患	医学書院	東京	2008	
大藤さとこ, 福島若葉, 廣田良夫, 押谷 伸英, 渡辺 憲治, 長堀 正和, 渡辺 守, The Japanese Case-Control Study Group for Ulcerative Colitis	潰瘍性大腸炎のリスク因子に関する症例対照研究	監修: 武藤徹一郎, 編集: 杉原健一, 藤盛孝博, 五十嵐正広, 渡邊聡明	大腸疾患NOW2009	日本メディカルセンター	東京	2009	177-82
鈴木康夫	クローン病におけるインプリキシマブの維持療法について	監修: 武藤徹一郎, 編集: 杉原健一, 藤盛孝博, 五十嵐正広, 渡邊聡明	大腸疾患NOW2008	日本メディカルセンター	東京	2008	194-198
松本豊之	IBDと生物学的製剤	林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹 編	Annual Review 消化器2008	中外医学社	東京	2008	75-80
松本豊之, 斎藤恵子, 豊田光子	潰瘍性大腸炎・クローン病の病態と治療	香川達雄 編		女子栄養大学出版部	東京	2008	5-18
吉田幸治, 松本豊之	Crohn病	渡辺純夫, 三輪洋人 編	専門医のための薬物療法Q&A 消化器	中外医学社	東京	2008	131-138
Matsumoto, T., Fukunaga, K., Kamikozuru, K., Tozawa, K., Yokoyama, Y., Kusaka, T., Ohnishi, K., Miwa, H. and Nakamura, S.	Cytapheresis as a nonpharmacological therapy for inflammatory bowel disease.	Rudiger E. Scharf ed.	Progress and challenges in Transfusion Medicine, Hemostasis, and Hemotherapy	Karger	Freiburg	2008	113-122
松本豊之, 應田義雄	診断を受ける前に…	NPO法人日本炎症性腸疾患協会(CCFJ), 福島恒男 編	潰瘍性大腸炎患者が本当にききたいこと-129のQ&A	弘文堂	東京	2008	2-7
飯塚政弘	内科入院, 他	福島恒男	クローン病患者が本当にききたいこと-140のQ & A	弘文堂	東京	2008	41-52
池内浩基	人工肛門	福島恒男	クローン病患者が本当にききたいこと	弘文堂	東京	2008	61-67 68-69
押谷伸英	クローン病腸管狭窄予防におけるトラニラスタの有効性	武藤徹一郎	大腸疾患NOW	日本メディカルセンター	東京	2008	165-168
石毛 崇, 友政 剛	炎症性腸疾患小児の成長障害とそれに影響を与える因子	武藤 徹一郎	大腸疾患NOW 2009	日本メディカルセンター	東京	2009	183-187
高木智久, 内藤裕二, 吉川敏一	炎症性腸疾患患者における酸化ストレス修飾蛋白質の同定	武藤徹一郎	大腸疾患NOW 2009	日本メディカルセンター	東京	2009	162-166
花井洋行, 竹内 健, 飯田貴之, 小林義孝, 渡辺文利, 阿部仁郎, 石丸 啓, 中村利夫, 中村光一, 田中達郎	特集: 腸炎をどうみるかー感染からIBDまでーIBDの内視鏡診断: 活動期UCの内視鏡診断の実態		消化器内視鏡20(8)	東京医学社	東京	2008	1199-1205
花井洋行, 竹内 健, 飯田貴之, 渡辺文利	潰瘍性大腸炎・クローン病診療の進歩 “炎症性腸疾患と血球成分除去療法”		診断と治療96(12)	診断と治療社	東京	2008	2543-2548

研究成果の刊行に関する一覧（論文）

執筆者氏名	論文題名	雑誌名	巻(号)	ページ	出版年
Onizawa M, Nagaishi T, Kanai T, Nagano K, Oshima S, Nemoto Y, Yoshioka A, Totsuka T, Okamoto R, Nakamura T, Sakamoto N, Tsuchiya K, Aoki A, Ohya K, Yagita H, <u>Watanabe M</u>	Signaling pathway via TNF α /NF κ B in intestinal epithelial cells may be directly involved in colitis-associated carcinogenesis	Am J Physiol GI & Liver		in press	2009
Takazoe M, Matsui T, Motoya S, Matsumoto T, Hibi T, <u>Watanabe M</u>	Sargramostim in Patients With Crohn's Disease: Results of a Phase 1-2 Study	J Gastroenterol		in press	2009
Okamoto R, Tsuchiya K, Nemoto Y, Akiyama J, Nakamura T, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Requirement of Notch activation during regeneration of the intestinal epithelia	Am J Physiol GI & Liver	296	G23-G35	2009
Murayama M, Okamoto R, Tsuchiya K, Akiyama J, Nakamura T, Sakamoto N, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Musashi-1 suppresses expression of Paneth cell specific genes in human intestinal epithelial cells	J Gastroenterol	44	173-182	2009
Nemoto Y, Kanai T, Tohda S, Totsuka T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Fukuda T, Miura O, Yagita H, <u>Watanabe M</u>	Negative feedback regulation of colitogenic CD4 ⁺ T cells by increased granulopoiesis	Inflamm Bowel Dis	14	1491-1503	2008
Fujii F, Kanai T, Tomita T, Nemoto Y, Totsuka T, Sakamoto N, Nakamura T, Tsuchiya K, Okamoto R, <u>Watanabe M</u>	FTY720 suppresses the development of colitis in lymphoid-null mice by modulating the trafficking of colitogenic CD4 ⁺ T cells in bone marrow	Eur J Immunol	38	3290-3303	2008
Araki A, Tsuchiya K, Okada E, Suzuki S, Oshima S, Okamoto R, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Single-operator method for double-balloon endoscopy: a pilot study	Endoscopy	40	936-938	2008
Sawada T, Nishiyama C, Kishi T, Sasazuki T, Komazawa-Sakon S, Xue X, Piao JH, Ogata H, Nakayama J, Taki T, Hayashi Y, <u>Watanabe M</u> , Yagita H, Okumura K, Nakano H	Fusion of One twenty-two to BSAC(Basic, SAP, and coiled-coil domain)results in aberrant upregulation of transcriptional activity	J Biol Chem	283	26820-26828	2008
Tomita T, Kanai T, Nemoto Y, Fujii T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nakamura T, Sakamoto N, Totsuka T, <u>Watanabe M</u>	Colitogenic CD4 ⁺ effector-memory T cells actively recirculate in chronic colitic mice	Inflamm Bowel Dis	14	1630-1640	2008
Yoshioka A, Okamoto R, Oshima S, Akiyama J, Tsuchiya K, Nakamura T, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Flagellin stimulation suppresses IL-7 secretion of intestinal epithelial cells	Cytokine	44	57-64	2008
Tomita T, Kanai T, Fujii T, Nemoto Y, Okamoto R, Tsuchiya K, Totsuka T, Sakamoto N, <u>Watanabe M</u>	Continuous generation of colitogenic CD4 ⁺ T cells in persistent colitis	Eur J Immunol	38	1264-1274	2008
Hino K, Tsuchiya K, Fukao T, Kiga K, Okamoto R, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Inducible expression of microRNA-194 is regulated by HNF-1 during intestinal epithelial cell differentiation	RNA	14	1433-1442	2008
Tomita T, Kanai T, Fujii T, Nemoto Y, Okamoto R, Tsuchiya K, Totsuka T, Sakamoto N, Akira S, <u>Watanabe M</u>	MyD88-dependent pathway in T cells directly modulates the expansion and survival of colitogenic CD4 ⁺ T cells in chronic colitis	J Immunol	180	5291-5299	2008
Totsuka T, Kanai T, Nemoto Y, Tomita T, Okamoto R, Tsuchiya K, Sakamoto N, <u>Watanabe M</u>	Immunosenescent colitogenic CD4 ⁺ T cells convert to regulatory cells to suppress colitis	Eur J Immunol	38	1275-1286	2008
Aragaki M, Tsuchiya K, Okamoto R, Yoshioka S, Nakamura T, Sakamoto N, Kanai T, <u>Watanabe M</u>	Proteasomal degradation of Atoh1 by aberrant Wnt signaling maintains the undifferentiated state of colon cancer	Biochem Biophys Res Commun	368	923-929	2008
Tomita T, Kanai T, Nemoto Y, Totsuka T, Okamoto R, Tsuchiya K, Sakamoto N, <u>Watanabe M</u>	Systemic, but not intestinal, IL-7 is essential for the persistence of chronic colitis	J Immunol	180	383-390	2008
Ito Y, Kanai T, Totsuka T, Okamoto R, Tsuchiya K, Nemoto Y, Yoshioka A, Tomita T, Nagaishi T, Sakamoto N, Sakanishi T, Okumura K, Yagita H, <u>Watanabe M</u>	Blockade of NKG2D signaling prevents the development of murine CD4 ⁺ T cell-mediated colitis	Am J Physiol GI & Liver	394	G199-207	2008

研究成果の刊行に関する一覧(論文)

Umeno J, Matsumoto T, Nakamura S, Jo Y, Yada S, Hirakawa K, Yoshimura R, Yamagata H, Kudo T, Hirano A, Gushima M, Yao T, Nakashima Y, <u>Iida M</u>	Linear mucosal defect may be characteristic of lansoprazole-associated collagenous colitis	Gastrointest Endosc	67	1185-1191	2008
Kudo T, Matsumoto T, Nakamichi I, Yada S, Esaki M, Jo Y, Ohji Y, Yao T, <u>Iida M</u>	Recombinant human granulocyte colony-stimulating factor reduces colonic epithelial cell apoptosis and ameliorates murine dextran sulfate sodium-induced colitis	Scand J Gastroenterol	43	689-697	2008
Matsumoto T, <u>Iida M</u> , Motoya S, Haruma K, Suzuki Y, Kobayashi K, Ito H, Miyata M, Kusunoki M, Chiba T, Yamamoto S, Hibi T	Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: A Japanese multicenter survey	Dis Colon Rectum	51	916-923	2008
Kanmura S, Uto H, Numata M, Hashimoto S, Moriuchi A, Fujita H, Oketani M, Ido A, Kodama M, Ohi H, <u>Tsubouchi H</u>	Human neutrophil peptides 1-3 are useful biomarkers in patients with active ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis		in press	2008
Tanaka H, Arimura Y, Yabana T, Goto A, Hosokawa M, Nagaishi K, Yamashita K, Yamamoto H, Sasaki Y, Fujimiya M, <u>Imai K</u> , Shinomura Y	Enhancing epithelial engraftment of rat mesenchymal stem cells restores epithelial barrier integrity		submitte d		2009
Yabana T, Arimura Y, Tanaka H, Seiya N, Tanaka M, Goto A, Yamashita K, Yamamoto H, Shinomura Y, <u>Imai K</u>	Enhancing epithelial engraftment of rat mesenchymal stem cells restores epithelial barrier integrity	J Pathol	in press		2009
Tanaka M, Arimura Y, Goto A, Hosokawa M, Nagaishi K, Yamashita K, Yamamoto H, Sonoda T, Nomura M, Motoya S, <u>Imai K</u> , Shinomura Y	Genetic variants in surfactant, pulmonary-associated protein D (SFTPD) and Japanese susceptibility to ulcerative colitis	Inflammatory Bowel Disease	in press		2008
Hori T, Naishiro Y, Sohma H, Suzuki N, Hatakeyama N, Yamamoto M, Sonoda T, Mizue Y, <u>Imai K</u> , Tsutsumi H, Kokai Y	CCL8 is a potential molecular candidate for the diagnosis of graft-versus-host disease	Blood	111	4403-4412	2008
Kawamura Y, Toyata M, Kawashima R, Hagiwara T, Suzuki H, <u>Imai K</u> , Shinomura Y, Tokino T, Kannagi R, Dohi T	DNA hypermethylation contributes to incomplete synthesis of carbohydrate determinants in gastrointestinal cancer	Gastroenterology	135	142-151	2008
Nakahara S, Arimura Y, Saito K, Goto A, Motoya S, Shinomura Y, Miyamoto A, <u>Imai K</u>	Association of SLC22A4/5 polymorphisms with steroid responsiveness of inflammatory bowel disease in Japan	Dis Colon Rectum	5	598-603	2008
<u>上野文昭</u>	IBD診療に役立つガイドライン	Intestine	13	15-23	2009
<u>上野文昭</u>	日常診療にEBMをどう取り入れるか。炎症性腸疾患ガイドラインを中心に	メディチーナ	45	821-824	2008
<u>上野文昭</u>	エビデンスとコンセンサスを統合した潰瘍性大腸炎のガイドライン (2006)	診断と治療	96	1866-1872	2008
Andoh A, Tsujikawa T, Sasaki M, Mitsuyama K, Suzuki Y, Matsui T, Matsumoto T, Benno Y, <u>Fujiyama Y</u>	Fecal microbiota profile of Crohn's disease determined by terminal restriction fragment length polymorphism (T-RFLP) analysis	Aliment Pharmacol Ther	28	75-82	2008
Ban H, Andoh A, Tanaka A, Tsujikawa T, Sasaki M, Saito Y, <u>Fujiyama Y</u>	Analysis of thiopurine S-methyltransferase genotypes in Japanese patients with inflammatory bowel disease	Intern Med	47	1645-1648	2008
Shimada M, Iwase H, Tsuzuki T, Hirashima N, Kobayashi K, Hibino Y, Watanabe H, Ryuge N, Ando T, Goto H, Yagi Y, Tsujikawa T, Andoh A	A pilot study of leukocytapheresis efficacy with 1.5 liter blood processing volume in patients with ulcerative colitis	Ther Apher Dial	12	368-73	2008
Ban H, Andoh A, Shioya M, Nishida A, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u>	Increased number of FoxP3+CD4+ regulatory T cells in inflammatory bowel disease	Mol. Med Rep	1	647-650	2008
Andoh A, Yagi Y, Shioya M, Nishida A, Tsujikawa T, <u>Fujiyama Y</u>	Mucosal cytokine network in inflammatory bowel disease	World J Gastroenterol	14	5154-5161	2008
武林亨, 朝倉敬子, 大藤さとこ, 福島若葉, 廣田良夫	【これからのIBD研究における研究班の使命は】 総括的疫学解析による疾病構造変化の追究	IBD Research	2(1)	28-37	2008
Matsumoto T, Kudo T, Esaki M, Yano T, Yamamoto H, Sakamoto C, Goto H, Nakase H, Tanaka S, <u>Matsui T</u> , Sugano K, Iida M	Prevalence of non-steroidal anti-inflammatory drug-induced enteropathy determined by double-balloon endoscopy: A Japanese multicenter study	Scandinavian Journal of Gastroenterology	43	490-496	2008

研究成果の刊行に関する一覧(論文)

Takaishi H, Matsuki T, Nakazawa A, Takada T, Kado S, Asahara T, Kamada N, Sakuraba A, Yajima T, Higuchi H, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Nomoto K, Tanaka R, <u>Hibi T</u>	Imbalance in intestinal microflora constitution could be involved in the pathogenesis of inflammatory bowel disease	Int J Med Microbiol	298(5-6)	463-472	2008
Kamada N, Maeda K, Inoue N, Hisamatsu T, Okamoto S, Hong KS, Yamada T, Watanabe N, Tsuchimoto K, Ogata H, <u>Hibi T</u>	Non-pathogenic Escherichia coli strain Nissle 1917 inhibits signal transduction in intestinal epithelial cells	Infect Immun	76(1)	214-220	2008
Sakuraba A, Sato T, Naganuma M, Morohoshi Y, Matsuoka K, Inoue N, Takaishi H, Ogata H, Iwao Y, <u>Hibi T</u>	A pilot open-labeled prospective randomized study between weekly and intensive treatment of granulocyte and monocyte adsorption apheresis for active ulcerative colitis	J Gastr oenterol	43(1)	51-56	2008
Matsumoto T, Iwao Y, Igarashi M, Watanabe K, Otsuka K, Watanabe T, Iizuka B, Hida N, Sada M, Chiba T, Kudo S, Oshitani N, Nagata H, Ajioka Y, <u>Hibi T</u>	Endoscopic and chromoendoscopic atlas featuring dysplastic lesions in surveillance colonoscopy for patients with long-standing ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis	14(2)	259-264	2008
Matsumoto T, Iida M, Motoya S, Haruma K, Suzuki Y, Kobayashi K, Ito H, Miyata M, Kusunoki M, Chiba T, Yamamoto S, <u>Hibi T</u>	Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: A Japanese multicenter survey	Dis Colon Rectum	51(6)	916-923	2008
Ogata H, Kumai K, Imaeda H, Aiura K, Hisamatsu T, Okamoto S, Iwao Y, Sugino Y, Kitajima M, <u>Hibi T</u>	Clinical impact of a newly developed capsule endoscope: usefulness of a real-time image viewer for gastric transit abnormality	J Gastr oenterol	43(3)	186-192	2008
Kamada N, Hisamatsu T, Okamoto S, Chinen H, Kobayashi T, Sato T, Sakuraba A, Kitazume M, T, Sugita A, Koganei K, Akagawa K, S, <u>Hibi T</u>	Unique CD 14+ intestinal macrophages contribute to the pathogenesis of Crohn disease via IL-23/IFN- γ axis	J Clin Invest	118(6)	2269-2280	2008
Nanno M, Kanari Y, Naito T, Inoue N, Hisamatsu T, Chinen H, Sugimoto K, Shimomura Y, Yamagishi H, Shiohara T, Ueha S, Matsushima K, Suematsu M, Mizoguchi A, <u>Hibi T</u> , Bhan AK, Ishikawa H	Exacerbating role of gammadelta T cells in chronic colitis of T-cell receptor alpha mutant mice	Gastroenterology	134 (2)	481-490	2008
Naganuma M, Sakuraba A, Hisamatsu T, Ochiai H, Hasegawa H, Ogata H, Iwao Y, <u>Hibi T</u>	Efficacy of infliximab for induction and maintenance of remission in intestinal behcet's disease	Inflamm Bowel Dis	14 (9)	1259-1264	2008
Tchikawa H, Okamoto S, Kamada N, Nagamoto H, Kitazume T M, Kobayashi T, Chinen H, Hisamatsu T, <u>Hibi T</u>	Tetomilast suppressed production of proinflammatory cytokines from human monocytes and ameliorated chronic colitis in IL-10-Deficient mice	Inflamm Bowel Dis	14(11)	1483-1490	2008
Komiyama T, Yajima T, Kubota R, Iwao Y, Sakuraba A, Funakoshi S, Negishi K, Minami I, Tanaka Y, Mae H, <u>Hibi T</u>	Lower doses of 6-mercaptopurine/azathioprine bring enough clinical efficacy and therapeutic concentration of erythrocyte 6-mercaptopurine metabolite in Japanese IBD patients	Journal of Crohn's and Colitis	2(4)	315-321	2008
Ishihara T, Tanaka K, Tasaka Y, Namba T, Suzuki J, Ishihara T, Okamoto S, <u>Hibi T</u> , Takenaga M, Igarashi R, Sato K, Mizushima Y, Mizushima T	Therapeutic Effect of L-citrinized Superoxide Dismutase against Colitis	J Pharm macol Exp Ther	328(1)	152-164	2008
岩男泰、長沼誠、小林拓、久松理一、岡本晋、井上詠、緒方晴彦、且比紀文、長谷川博俊、三上修治、向井萬起男、杉野吉則	炎症性腸疾患における癌化・発育進展 UC関連大腸癌の臨床的検討	胃と腸	43 (13)	1925-1934	2008
久松理一、鎌田信彦、且比紀文	3. 消化管 腸管免疫研究の最前線 -腸管の恒常性維持と炎症性腸疾患におけるその破綻- 1. 消化管	Annual Review 消化器		13-18	2008
高山哲朗、長沼誠、且比紀文	クローン病における免疫抑制剤特集 炎症性腸疾患治療のup to date	臨床消化器内科	23(5)	613-620	2008
且比紀文	クローン病 特集 消化器疾患の治療	医学と薬学	59(4)	515-521	2008
且比紀文、中澤敦	51. クローン病	総合臨床	57増刊	184(986)-187(989)	2008
井上詠、今枝博之、且比紀文	潰瘍性大腸炎の既往がある患者へのNSAIDs使用と再燃	Medicina	45(9)	1626-1629	2008
鎌田信彦、久松理一、岡本晋、且比紀文	消化管自然免疫破綻と炎症性腸疾患	細胞工芸学	27(8)	770-774	2008
井上詠、且比紀文	Crohn病と遺伝子異常	最新医学	63(9月増刊号)	157(1945)-167(1955)	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

日比紀文、緒方晴彦	潰瘍性大腸炎の病態と治療 教育講習	日本内科学会雑誌	97 (9)	310-318	2008
久松理一、日比紀文	アポトーシスは炎症性腸疾患とどのようにかわるのか?	分子消化器病	5 (2)	23(139)-27 (143)	2008
久松理一、日比紀文	機能性食品と薬理栄養 アミノ酸と腸管免疫	J. JSMU FF	5(2)	47-51	2008
日比紀文、江崎俊彦	大腸疾患の実地診療へのアプローチ その2 炎症性腸疾患の実地診療指針	Medicine Practice	25(4)	586-593	2008
日比紀文	特集 消化管と生活習慣病 序	G. I. Research	16(2)	I(97)-II (98)	2008
芳沢茂雄、日比紀文	炎症性小腸疾患における新しい治療法 (インフリキシマブ、免疫抑制剤を含む)	日本臨床	66 (7)	1279-1285	2008
長沼誠、高山哲朗、金井隆典、日比紀文	3. 下部消化管疾患 炎症性腸疾患 (IBD)	月刊レジデント	1(9)	52-55	2008
金井隆典、久松理一、長沼誠、緒方晴彦、日比紀文	炎症性腸疾患 (IBD) 基礎から臨床まで	感染・炎症・免疫	38(3)	217-224	2008
井上詠、岩男泰、久松理一、岡本晋、長沼誠、高石官均、緒方晴彦、杉野吉則、日比紀文	non-IBDの内視鏡診断 超結核 古くて新しい疾患の内視鏡診断・X線診断	消化器内視鏡	20(8)	1271-1276	2008
今枝博之、岩男泰、中溝裕雅、細江直樹、井田陽介、井上詠、緒方晴彦、日比紀文	non-IBDの内視鏡診断 放射線腸炎	消化器内視鏡	20(8)	1326-1329	2008
今枝博之、細江直樹、長沼誠、中溝裕雅、柏木和弘、別所理恵子、井田陽介、緒方晴彦、岩男泰、日比紀文	ダブルバルーン内視鏡とシングルバルーン内視鏡の比較	消化器内視鏡	20(10)	1518-1523	2008
高山哲朗、久松理一、日比紀文	腸管免疫の分子機構 消化管疾患の分子医学—基礎医学から臨床へ	臨床消化器内科	24(2)	217-223	2009
小林拓、日比紀文	I. 炎症性腸疾患の概念・定義と疫学	日本内科学会雑誌	98(1)	5-11	2009
金井隆典、久松理一、渡辺守、日比紀文	II. 炎症性腸疾患の病理・病態生理 1. 腸管免疫抑制機構の破綻による炎症性腸疾患の発症	日本内科学会雑誌	98(1)	12-17	2009
緒方晴彦、日比紀文	IV. 潰瘍性大腸炎の管理・治療 3. 免疫抑制剤	日本内科学会雑誌	98(1)	68-74	2009
日比紀文	腸管局所免疫機構の解明に基づく炎症性腸疾患に対する新しい治療法の開発	日本医師会雑誌	137(10)	60-64	2009
Moriichi K, Watari J, Das KM, Tanabe H, Fujiya M, Ashida T, Kohgo Y	Effects of Helicobacter pylori infection on genetic instability, the aberrant CpG island methylation status and the cellular phenotype in Barrett's esophagus in a Japanese population	Int J Cancer	124(6)	1263-1269	2009
Sato R, Watari J, Tanabe H, Fujiya M, Ueno N, Konno Y, Ishikawa C, Ito T, Moriichi K, Okamoto K, Maemoto A, Chisaka K, Kitano Y, Matsumoto K, Ashida T, Kono T, Kohgo Y	Transnasal ultrathin endoscopy for placement of a long intestinal tube in patients with intestinal obstruction	Gastrointest Endosc	67(6)	953-957	2008
Zaky AH, Watari J, Tanabe H, Sato R, Moriichi K, Tanaka A, Maemoto A, Fujiya M, Ashida T, Kohgo Y	Clinicopathologic implications of genetic instability in intestinal-type gastric cancer and intestinal metaplasia as a precancerous lesion: proof of field cancerization in the stomach	Am J Clin Pathol	129(4)	613-621	2008
Watari J, Das KM, Amenta PS, Tanabe H, Tanaka A, Geng X, Lin JJ, Kohgo Y, Das KM	Effect of eradication of Helicobacter pylori on the histology and cellular phenotype of gastric intestinal metaplasia	Clin Gastroenterol Hepatol	6(4)	409-417	2008
Kohgo Y, Ikuta K, Ohtake T, Torimoto Y, Kato J	Body iron metabolism and pathophysiology of iron overload	Int J Hematol	88(1)	7-15	2008
蘆田知史、高後裕	【炎症性腸疾患治療のup to date】炎症性腸疾患における新規治療	臨床消化器内科	23(5)	633-638	2008
高後裕、蘆田知史、本谷聡、武田宏司、坂牧純夫	新しいIBD診療の飛躍に向かって 北海道地区編 研究班プロジェクト「啓蒙活動」のモデルケースとして	IBD Research	2(2)	100-111	2008
藤谷幹浩、高後 裕	腸細胞の有機カチオントランスポーターとその解析法	分子消化器病	5(3)	64-72	2008
Y. Suzuki, T. Matsumoto, S. Okamoto and T. Hibi	A lecithinized superoxide dismutase (PC-SOD) improves ulcerative colitis	Colorectal Disease			2008
鈴木康夫	抗TNF- α 抗体による抗サイトカイン療法の有効性	Medical Practice	25(4)	669-670	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

鈴木康夫, 山田哲弘	潰瘍性大腸炎におけるシクロスポリンの適応と効果	臨床消化器内科	23(5)	565-574	2008
鈴木康夫	炎症性腸疾患の治療薬開発の現状-ここまで来た新治療薬	medicina	45(5)	884-886	2008
鈴木康夫	炎症性腸疾患の内科的治療	消化器外科	31(10)	1487-1495	2008
鈴木康夫	潰瘍性大腸炎の手術適応-内科から-	IBD Research	2(3)	28-32	2008
鈴木康夫	炎症性腸疾患における免疫抑制薬	Pharma Medica	26(3)	29-32	2008
Inoue S, Nakase H, Matsuura M, Mikami S, Ueno S, Uza N, Chiba T	The effect of proteasome inhibitor MG-132 on experimental inflammatory bowel disease	Clin Exp Immunol		in press	2009
Matsumura K, Nakase H, Yamamoto S, Yoshino T, Takeda Y, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Chiba T	Modulation of the Th1/Th2 balance by infliximab improves hyperthyroidism associated with flare-up of ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis		in press	2009
Takeda Y, Nakase H, Chiba T	Up-regulation of T-bet and tight junction molecules by /Bifidobacterium longum/ improves colonic inflammation of ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis		in press	2009
Kuwabara A, Tanaka K, Tsugawa N, Nakase H, Tsuji H, Shide K, Kamano M, Chiba T, Inagaki N, Okano T, Kido S	High prevalence of vitamin K and D deficiency and decreased BMD in inflammatory bowel disease	Osteoporos Int		in press	2009
Yamamoto S, Nakase H, Takada M	Clinical Challenges and Images in GI: Relapsing polychondritis in ulcerative colitis	Gastroenterology		in press	2009
Nakase H, Mikami S, Chiba T	Alteration of CXCR4 expression and Th1/Th2 balance of peripheral CD4 positive T cells can be a biomarker for leukocytapheresis therapy for patients with refractory ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis		in press	2009
Matsumoto T, Iida M, Motoya S, Haruma K, Suzuki Y, Kobayashi K, Ito H, Miyata M, Kusunoki M, Chiba T, Yamamoto S, Hibi T	Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: A Japanese multicenter survey	Dis Colon Rectum	51(6)	916-923	2008
Uza N, Nakase H, Ueno S, Inoue S, Mikami S, Tamaki H, Matsuura M, Chiba T	The effect of medical treatment on patients with fistulizing Crohn's disease: our experience with a retrospective study	Intern Med	47(4)	193-199	2008
Endo Y, Marusawa H, Kou T, Nakase H, Fujii S, Fujimori T, Kinoshita K, Honjo T, Chiba T	Activation-induced cytidine deaminase links between inflammation to colitis-associated colorectal cancers	Gastroenterology	135(3)	889-898	2008
Yoshino T, Nakase H, Mikami S, Nio M, Ueno S, Uza N, Ohmori K, Manabe T, Chiba T	Importance of diagnosis of concomitant cytomegalovirus infection in patients with intestinal Behcet's disease	Inflamm Bowel Dis	14(6)	877-878	2008
Yamamoto S, Nakase H, Mikami S, Inoue S, Yoshino T, Takeda Y, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Kitamura H, Tamaki H, Matsuura M, Inui K and Chiba T	Long-term effect of tacrolimus therapy in patients with refractory ulcerative colitis	Aliment Pharmacol Therapeutics	28(5)	589-597	2008
Mikami S, Nakase H, Yamamoto S, Takeda Y, Yoshino T, Kasahara K, Ueno S, Uza N, Oishi S, Fujii N, Nagasawa T, Chiba T	Blockade of CXCR12/CXCR4 axis ameliorates murine experimental colitis	J Pharmacol Exp Therapeut	327	383-392	2008
Tamaki H, Nakase H, Matsuura M, Inoue S, Mikami S, Ueno S, Uza N, Kitamura H, Kasahara K, Chiba T	The effect of tacrolimus (FK-506) on Japanese patients with refractory Crohn's disease	J Gastroenterol	43(10)	774-779	2008
Nakase H, Matsumura K, Yoshino T, Chiba T	Systematic review: cytomegalovirus infection in inflammatory bowel disease	J Gastroenterol	43(10)	735-740	2008
Takeda Y, Nakase H, Mikami S, Inoue T, Satou S, Sakai Y, Chiba T	Possible link Between Ulcerative Colitis and In situ Adenocarcinoma of an Appendiceal Mucocoele: Importance of Inflammation in the Appendiceal Orifice Related to UC	Inflam Bowel Dis	14(6)	873-874	2008
仲瀬裕志, 千葉 勉	炎症性腸疾患の治療-知っておきたい炎症性腸疾患の合併症とその治療-皮膚、関節病変、肛門部病変の診かた	Medicina	45(5)	833-838	2008
仲瀬裕志, 千葉 勉	消化器疾患 (炎症性腸疾患)	炎症と免疫	16(3)	299-303	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

Tanaka T, Watanabe T, Kitayama J, Kazama Y, Tanaka J, Kanazawa T, Kazama S, Nagawa H	Chromosome 18q deletion as a novel molecular predictor for colorectal cancer with simultaneous hepatic metastasis	Diagn Mol Pathol		in press	2009
Watanabe T, Kobunai T, Sakamoto E, Yamamoto Y, Konishi T, Horiuchi A, Shimada R, Oka T, Nagawa H	Gene expression signature for recurrence in stage III colorectal cancers	Cancer	115(2)	283-292	2009
Tanaka T, Watanabe T, Kazama Y, Tanaka J, Kanazawa T, Kazama S, Nagawa H	Loss of Smad4 protein expression and 18qLOH as molecular markers indicating lymph node metastasis in colorectal cancer—a study matched for tumor depth and pathology	J Surg Oncol	97(1)	69-73	2008
Ohnishi T, Watanabe T, Nozawa H, Kitayama J, Nagawa H	Telomerase activity of blood samples and recurrence of colorectal cancer	Hepatogastroenterology	55(86-87)	1513-1518	2008
Watanabe T	Recent advances in chemotherapy and chemoradiotherapy for gastrointestinal tract cancers	Int J Clin Oncol	13(6)	472-473	2008
渡邊聡明	大腸疾患の实地診療・セミナー 炎症性腸疾患の現状と实地診断の実際 炎症性腸疾患からの発癌とサーベイランス	Medical Practice	25(4)	657-659	2008
渡邊聡明	IBDの癌化サーベイランスはどのようにおこなわれるべきか 炎症性発癌の治療とサーベイランスの未来像	IBD Research	2(2)	136-141	2008
渡邊聡明	消化器癌 21世紀のサーベイランス 大腸癌とサーベイランス 遺伝子診断の立場から	Modern Physician	28(7)	1016-1021	2008
渡邊聡明	大腸疾患の实地診療・セミナー 炎症性腸疾患の現状と实地診断の実際 炎症性腸疾患からの発癌とサーベイランス	Medical Practice	25(4)	657-659	2008
渡邊聡明	IBDの癌化サーベイランスはどのようにおこなわれるべきか 炎症性発癌の治療とサーベイランスの未来像	IBD Research	2(2)	136-141	2008
渡邊聡明	消化器癌 21世紀のサーベイランス 大腸癌とサーベイランス 遺伝子診断の立場から	Modern Physician	28(7)	1016-1021	2008
Kamikozuru K, Fukunaga Ken, Hirota Se, Hida N, Ohda Y, Yoshida K, Tozawa K, Jimuro M, Nagase K, Saniabadi, Nakamura S, Miwa H and Matsumoto T	The Expression Profile of the Functional Regulatory T cells, CD4+CD25High+/- FOXP3+, in Patients with Ulcerative Colitis During Active and Quiescent Disease	Clin Exp Immunol		in press	2009
Fukunaga K, Nagase K, Kusaka T, Hida N, Ohda Y, Yoshida K, Tozawa K, Kamikozuru K, Jimuro M, Nakamura S, Miwa H and Matsumoto T	Cytapheresis in patients with severe ulcerative colitis after failure of intravenous corticosteroid: (A long-term retrospective cohort study)	Gut and Liver		in press	2009
Hibi T, Sameshima Y, Sekiguchi Y, Hisatome Y, Maruyama F, Moriawaki K, Shima C, Saniabadi ARand Matsumoto T	Treating ulcerative colitis by Adacolumn therapeutic leucocytapheresis: Clinical efficacy and safety based on surveillance of 656 patients in 53 centres in Japan	Dig. Liver Dis		in press	2009
Matsumoto T, Fukunaga K, Kamikozuru K, Tozawa K, Yokoyama Y, Kusaka T, Ohnishi K, Miwa Hand Nakamura S	Cytapheresis as a non-pharmacological therapy for inflammatory bowel disease	Transfus. Med. Hemother	35(1)	18-23	2008
Matsumoto T, Iwao Y, Igarashi M, Watanabe K, Otsuka K, Watanabe T, Iizuka B, Hida N, Sada M, Chiba T, Kudo S, Oshitani N, Nagawa H, Ajioka Y. and Hibi T	Endoscopic and chromoendoscopic atlas featuring dysplastic lesions in surveillance colonoscopy for patients with long-standing ulcerative colitis	Inflamm. Bowel Dis	14(2)	259-264	2008
Tozawa K, Fukunaga K, Kamikozuru K, Ohnishi K, Hida N, Ohda Y, Kusaka T, Yoshida K, Jinno Y, Nagase K, Nakamura S, Miwa H and Matsumoto T	Hyperthermic stimulation of blood increases the immunological effects of granulocyte and monocyte adsorption in vitro: Relevance to extracorporeal immunomodulation	Transfus. Apher. Sci	39	129-135	2008
松本豊之, 樋田信幸	炎症性腸疾患と発癌	日本内科学会雑誌	97(3)	503-507	2008
Hori K, Ikeuchi H, Nakano H, Uchino M, Yomita T, Ohda Y, Hida N, Matsumoto T, Fukuda Y and Miwa H	Gastroduodenitis associated with ulcerative colitis	J. Gastroenterol	43(3)	193-201	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

内野 基, 池内浩基, 松岡宏樹, 田中慶太, 久野隆史, 大嶋 勉, 塚本 潔, 中村光宏, 外賀 真, 中埜廣樹, 野田雅史, 樋田信幸, 松本譽之, 竹末芳生, 富田尚裕	多彩な病理形態を示したColitic Cancerの1例	日本大腸肛門病学会雑誌	61(5)	267-271	2008
内野 基, 池内浩基, 大嶋 勉, 塚本 潔, 中村光宏, 外賀 真, 中埜廣樹, 柳生利彦, 野田雅史, 神野良男, 松本譽之, 富田尚裕	潰瘍性大腸炎術後, 回腸囊staple line ulcer, 小腸Dieulafoy's Cirroid Aneurysm(Dieulafoy様潰瘍)出血に対し内視鏡的止血が有用であった1例	Gastroenterological Endoscopy	50(4)	1129-1135	2008
池内浩基, 中埜廣樹, 内野 基, 中村光宏, 松岡宏樹, 竹末芳生, 福田能啓, 樋田信幸, 中村志郎, 松本譽之, 富田尚裕	クローン病に対するPET検査の有用性の検討	日本大腸肛門病学会雑誌	61(6)	303-310	2008
横山陽子, 福永 健, 大西国夫, 日下剛, 上小鶴孝二, 戸澤勝之, 松本譽之	Prednisonが潰瘍性大腸炎の末梢血中におけるRegulatoryCD25HighCD4+Tcellに及ぼす影響(Granulocyte Monocyte Apheresis(GMA)への影響)	消化器と免疫	44	62-65	2008
Ohama T, Hori M, Fujisawa M, Kiyosue M, Hashimoto M, Ikenoue Y, Jinno Y, Miwa H, Matsumoto T, Murata T and Ozaki H	Downregulation of CPI-17 contributes to dysfunctional motility in chronic intestinal inflammation model mice and ulcerative colitis patients	J. Gastroenterol	43(11)	858-865	2008
Matsumoto T, Andoh A, Okawa K, Ito H, Torii A, Yoshikawa S, Nakaoka R, Okuyama Y, Oshitani N, Nishishita M, Watanabe K, Fukunaga K, Ohnishi K, Kusaka T, Yokoyama Y, Sasaki M, Tsujikawa T, Aoki T, Kusaka To, Takeda Y, Umehawa Y, Nakamura S and Fujiyama Y	Multivariate analysis for factors predicting rapid response of leukocytapheresis in patients with steroid-resistant ulcerative colitis: a multicenter prospective open-label study	Therapeutic apheresis and dialysis	12(6)	484-490	2008
朝倉敬子, 武林亨	炎症性腸疾患と機能的腸疾患の疫学	medicina	45(5)	785-788	2008
Egawa, S., Iijima, H., Shinzaki, S., Nakajima, S., Wang, J., Kondo, J., Ishii, S., Yoshio, T., Irie, T., Nishida, T., Kakiuchi, Y., Yasumaru, M., Yoshihara, H., Kanto, T., Tsujii, M., Tsuji, S., Hayashi, N	Upregulation of GRAL1 is Associated with Remission of Ulcerative Colitis	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	295(1)	G163-G169	2008
Hayashi Y, Tsuji S, Tsujii M, Nishida T, Ishii S, Iijima H, Nakamura T, Eguchi H, Miyoshi E, Hayashi N, Kawano S	Topical Implantation of Mesenchymal Stem Cells has Beneficial Effects on Healing of Experimental Colitis in Rats	J Pharmacol Exp Ther	326(2)	523-31	2008
Shinzaki S, Iijima H, Nakagawa T, Egawa S, Nakajima S, Ishii S, Irie T, Kakiuchi Y, Nishida T, Yasumaru M, Kanto T, Tsujii M, Tsuji S, Mizushima T, Yoshihara H, Kondo A, Miyoshi E, Hayashi N	IgG oligosaccharide alterations are a novel diagnostic marker for disease activity and the clinical course of inflammatory bowel disease	Am J Gastroenterol	103(5)	1183-81	2008
飯島英樹, 林紀夫	グライコミクスの世界 炎症性腸疾患と糖鎖	医学のあゆみ	225(8)	637-641	2008
中島佐知子, 飯島英樹	抗TNF α 抗体を用いた炎症性腸疾患の治療	Clinician	574	1195-1198	2008
飯塚政弘	腸上皮細胞修復とアポトーシスのバランスはどのように制御されるのか?	分子消化器病	5	133-138	2008
Uchino M, Ikeuchi H, Matsuoka H, Tanaka K, Kuno T, Ohshima T, Tsukamoto K, Nakamura M, Gega M, Yuyugy T, Nakano H, Noda M, Tomita N	Postoperative enteroenteric intussusception in patients with Crohn's disease: Report of two cases	Surg Today	38	366-370	2008
内野 基, 池内浩基, 松岡宏樹, 田中慶太, 久野隆史, 大嶋 勉, 塚本 潔, 中村光宏, 外賀 真, 中埜廣樹, 野田雅史, 樋田信幸, 松本譽之, 竹末芳生, 富田尚裕	多彩な病理形態を示したColitic cancerの1例	日本大腸肛門病学会雑誌	61	267-271	2008
内野 基, 池内浩基, 松岡宏樹, 田中慶太, 久野隆史, 大嶋 勉, 塚本 潔, 中村光宏, 外賀 真, 中埜廣樹, 野田雅史, 竹末芳生, 富田尚裕	潰瘍性大腸炎穿孔手術28症例の検討	日本大腸肛門病学会雑誌	61	298-302	2008
池内浩基, 中埜廣樹, 内野 基, 中村光宏, 松岡宏樹, 竹末芳生, 福田能啓, 樋田信幸, 中村志郎, 松本譽之, 富田尚裕	クローン病に対するPET検査の有用性の検討	日本大腸肛門病学会雑誌	61	303-310	2008
内野 基, 池内浩基, 松岡宏樹, 中村光宏, 中埜廣樹, 富田尚裕	Back wash ilitisを合併した潰瘍性大腸炎の3手術例	日本臨床外科学会雑誌	69	1418-1422	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

池内浩基, 中槇廣樹, 内野 基, 中村光宏, 松岡宏樹, 田中慶太, 久野隆史, 大嶋勉, 塚本 潔, 外賀 真, 野田雅史, 竹末芳生, 樋田信幸, 中村志郎, 松本善之, 西上隆之, 富田尚裕	肛門管粘膜切除部に癌の合併を認めた潰瘍性大腸炎手術症例の検討	日本大腸肛門病学会雑誌	61	516-520	2008
内野 基, 池内浩基, 田中慶太, 松岡宏樹, 久野隆史, 中村光宏, 大嶋 勉, 塚本 潔, 外賀 真, 中槇廣樹, 野田雅史, 竹末芳生, 松本善之, 竹末芳生, 富田尚裕	クローン病に合併する難治性痔瘻、膿瘍に対する108手術症例の検討	日本大腸肛門病学会雑誌	61	498-503	2008
池内浩基, 中槇廣樹, 内野 基, 中村光宏, 松岡宏樹, 富田尚裕	潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘・回腸囊肛門吻合術	消化器外科	31	1503-1512	2008
池内浩基, 内野 基, 中村光宏, 松岡宏樹, 竹末芳生, 富田尚裕	潰瘍性大腸炎に合併したcolitic cancerに対するPET検査所見の検討	臨床外科	63	1597-1602	2008
内野 基, 池内浩基, 平田晃弘, 山岸大介, 田中慶太, 久野隆史, 塚本 潔, 大嶋勉, 中村光宏, 外賀 真, 中槇廣樹, 野田雅史, 富田尚裕	大腸全摘術後の栄養管理	外科	70	1070-1076	2008
Shogo Kawaguchi, Yoh Ishiguro, Tadaatsu Imaizumi, Fumiaki Mori, Tomoh Matsumiya, Hidemi Yoshida, Ken Ota, Hirotake Sakuraba, Kazufumi Yamagata, Yuki Sato, Kunikazu Tanji, Toshihiro Haga, Koichi Wakabayashi, Shinsaku Fukuda, Kei Satoh	Retinoic acid-inducible gene-1 is constitutively expressed and involved in IFN- γ -stimulated CXCL9-11 production in intestinal epithelial cells	Immunology Letters		in press	2009
山形和史, 石黒 陽, 櫻庭 裕丈, 樋口博之, 福田 真作, 棟方 昭博	潰瘍性大腸炎の診断	診断と治療	96(12)	2468-2475	2008
石黒 陽, 山形和史, 櫻庭 裕丈, 樋口博之, 福田 真作	薬の知識 クローン病維持療法に対するインブリキシマブ (レミケード)	臨床消化器内科	23(9)	1377-1384	2008
Mishima Yo, Ishihara S, Amano Y, Oshima N, Kadota C, Otani A, Moriyama I, Li YY, Aziz M, Kinoshita Y	Mishima Yo, Ishihara S, Amano Y, Oshima N, Kadota C, Otani A, Moriyama I, Li YY, Aziz M, Kinoshita Y: Alterations of peripheral blood CD5(+) B cells in inflammatory bowel disease	Scandinavia Journal of Gastroenterology	44	175-9	2009
Aziz MM, Ishihara S, Rumi MA, Mishima Yo, Oshima N, Kadota C, Moriyama I, Li YY, Rahman FB, Otani A, Oka A, Ishimura N, Kadowaki Y, Amano Y, Kinoshita Y	Prolactin induces MFG-E8 production in macrophages via transcription factor C/EBP β -dependent pathway	Apoptosis	13	609-20	2008
Moriyama I, Ishihara S, Rumi MA, Aziz MD, Mishima Yo, Oshima N, Kadota C, Kadowaki Y, Amano Y, Kinoshita Y	Decoy oligodeoxynucleotide targeting activator protein-1(AP-1) attenuates intestinal inflammation in murine experimental colitis	Laboratory investigation	88	652-63	2008
Ishihara S, Aziz M, Oshima N, Mishima Y, Imaoka H, Moriyama I, Kinoshita Y	Irritable bowel syndrome and inflammatory bowel disease: infectious gastroenteritis-related disorders?	Clinical Journal of Gastroenterology		in press	
Matsushita M, Ando Y, Omiya M, Uchida K, Nishio A, Okazaki K	Association of "ulcerative appendicitis" and appendiceal adenocarcinoma	Inflamm Bowel Dis			2008
Ando Y, Matsushita M, Kawamata S, Shimatani M, Fujii T, Okazaki K	Infliximab for severe gastrointestinal bleeding in Crohn's disease	Inflamm Bowel Dis			2008
Toyonaga T, Matsushita M, Matsumoto T, Fukui T, Omiya M, Uchida K, Okazaki K	Endoscopic injection therapy for a bleeding exposed vessel in Crohn's disease	Inflamm Bowel Dis	68(3)	572-573	2008
Hachimine D, Uchida K, Asada M, Nishio A, Kawamata S, Sekimoto G, Murata M, Yamagata H, Yoshida K, Mori S, Tahashi Y, Matsuzaki K, Okazaki K	Involvement of Smad3 phosphoisoform-mediated signaling in the development of colonic cancer in IL-10-deficient mice	Int J Oncol	32(6)	1221-1226	2008
Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Okazaki K, Ikehara S	Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats	Inflamm Bowel Dis	14(6)	826-838	2008
Sumimoto K, Matsushita M, Okazaki T, Omiya M, Uchida K, Okazaki K	Crohn's disease accompanied by purulent discitis and psoas abscesses	Inflamm Bowel Dis	14(5)	728-730	2008
梶谷 昌明, 松下 光伸, 若松 隆宏, 大宮美香, 内田 一茂, 高岡 亮, 関 寿人, 岡崎 和二	バルミチン酸デキサメタゾンの静注が有効であった単純性潰瘍の1例	Gastroenterological Endoscopy	別刷50巻4号	1109-1114	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

Kamata N, Oshitani N, Sogawa M, Yamagami H, Watanabe K, Fujiwara Y, Arakawa T	Usefulness of MRI for detection of asymptomatic osteonecrosis of the femoral head in patients with inflammatory bowel disease on long-term corticosteroid treatment	Scand J Gastroenterol	43	308-313	2008
Matsumoto T, Iwao Y, Igarashi M, Watanabe K, Otsuka K, Watanabe T, Lizuka B, Hida N, Sada M, Chiba T, Kudo S, Oshitani N, Nagawa H, Ajioka Y, Hibi T	Endoscopic and chromoendoscopic atlas featuring dysplastic lesions in surveillance colonoscopy for patients with long-standing ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis	14	259-264	2008
Suekane T, Ikura Y, Arimoto J, Nakagawa M, Kitabayashi C, Naruko T, Watanabe T, Fujiwara Y, Oshitani N, Maeda Kiyoshi, Tanzawa K, Hirakawa K, Arakawa T, Ueda M	Enhanced expressions of endothelin-converting enzyme and endothelin receptors in human colonic tissues of Crohn's disease	J Clin Biochem Nutr	42	426-432	2008
Hirata N, Oshitani N, Kamata N, Sogawa M, Yamagami H, Watanabe K, Watanabe T, Tominaga K, Fujiwara Y, Maeda K, Hirakawa K, Arakawa T	Proliferation of immature plasma cells in pouchitis mucosa in patient with ulcerative colitis	Inflamm Bowel Dis	14	1084-1090	2008
Matsumoto T, Andoh A, Okawa K, Ito H, Torii A, Yoshikawa S, Nakaoka R, Okuyama Y, Oshitani N, Hishishita M, Watanabe K, Fukunaga K, Ohnishi K, Kusaka T, Yokoyama Y, Sasaki M, Tsujikawa T, Aoki T, Kusaka T, Takeda Y, Umehara Y, Nakamura S, Fujiyama Y.	Multivariate analysis for factors predicting rapid response of leukocytapheresis in patients with steroid-resistant ulcerative colitis: A multicenter prospective open-label study	Therapeutic Apheresis and Dialysis	12	484-490	2008
Hosomi S, Oshitani N, Kamata N, Sogawa M, Yamagami H, Watanabe K, Tominaga K, Watanabe T, Fujiwara Y, Maeda K, Hirakawa K, Arakawa T	Phenotypical and functional study of ghrelin and its receptor in the pathogenesis of Crohn's disease	Inflamm Bowel Dis	14	1205-1213	2008
Itabashi M, Ikeuchi H, Araki T, Kono T, Nakamura T, Takesue Y, Kameoka S, Kusunoki M	Effectiveness of leukocytapheresis in suppressing the occurrence of surgical site infections following surgery for ulcerative colitis	Surg Today	38(7)	609-617	2008
Ogawa N, Saito N, Kameoka S, Kobayashi M	Clinical significance of intercellular adhesion molecule-1 in ulcerative colitis	Int Surg	93(1)	37-44	2008
板橋道朗, 番場嘉子, 橋本拓造, 廣澤知一郎, 小川真平, 亀岡信徳	潰瘍性大腸炎、Crohn病に対する腹腔鏡下手術	消化器外科	31(10)	1549-1558	2008
Okita Y, Miki C, Araki T, Inoue M, Otake K, Uchida K, Kusunoki M.	Ulcerative colitis with severe backwash ileitis successfully treated by staged operation without sacrificing any involved ileum	Journal of Pediatric Surgery	44(1)	e37-39	2009
Yoshiyama S, Miki C, Okita Y, Araki T, Uchida K, Kusunoki M.	Neutrophil-related immunoinflammatory disturbance in steroid-overdosed ulcerative colitis patients	Journal of Gastroenterology	43(10)	789-797	2008
Itabashi M, Ikeuchi H, Araki T, Kono T, Nakamura T, Takesue Y, Kameoka S, Kusunoki M.	Effectiveness of leukocytapheresis in suppressing the occurrence of surgical site infections following surgery for ulcerative colitis	Surg Today	38(7)	609-617	2008
Matsumoto T, Iida M, Motoya S, Haruma K, Suzuki Y, Kobayashi K, Ito H, Miyata M, Kusunoki M, Chiba T, Yamamoto S, Hibi T.	Therapeutic efficacy of infliximab on patients with short duration of Crohn's disease: a Japanese multicenter survey	Diseases of the Colon & Rectum	32(6)	916-923	2008
植正人, 荒木俊光	炎症性腸疾患: 診断と治療の進歩 外科療法 of 最近の動向	日本内科学会雑誌	98(1)	104-109	2009
荒木俊光, 三木賢雄, 吉山繁幸, 大北喜基, 大竹耕平, 井上幹大, 内田恵一, 植正人	クローン病術後寛解維持療法としてのインフリキシマブ	消化器科	48(3)	in press	2009
荒木俊光, 三木賢雄, 吉山繁幸, 内田恵一, 植正人	術期の栄養管理の理論と実際 潰瘍性大腸炎手術例	栄養-評価と治療	26(1)	in press	2009
吉山繁幸, 三木賢雄, 植正人	侵襲をめぐるQ&A 生体影響因子 好中球制御療法による外科的感染予防について教えて下さい(Q&A)	Surgery Frontier	15(4)	459-462	2008
荒木俊光, 吉山繁幸, 大北喜基, 内田恵一, 三木賢雄, 植正人	【IBD手術適応判断のポイントと術後の長期予後】 クローン病の手術適応 外科から	IBD Research	2(3)	214-220	2008
荒木俊光, 植正人	潰瘍性大腸炎の術式とIC時の注意点	日本医事新報	(4381)	93-94	2008

研究成果の刊行に関する一覧 (論文)

Tajiri H, Tomomasa T, Yoden A, Konno M, Sasaki M, Maisawa S, Sumazaki R, Hashimoto M, Shimizu T, Toyoda S, Etani Y, Nakacho M, Ushijima K, Kobayashi A	Efficacy and safety of azathioprine and 6-mercaptopurine in Japanese pediatric patients with ulcerative colitis: A survey of the Japan Study Group for Pediatric Inflammatory Bowel Disease	Digestion	77	150-154	2008
牛島高介, 内田恵一, 余田 篤, 友政剛, 鎌本聖一, 清水俊明, 田尻 仁, 田原卓浩, 永田 智, 小林昭夫	本邦における小児期発症の潰瘍性大腸炎の外科的治療の現状	小児科学会雑誌	113(1)	43-49	2009
友政 剛	小児の潰瘍性大腸炎・クローン病の診療	診断と臨床	96(12)	2527-2534	2008
鈴木優子 友政 剛	炎症性腸疾患	小児科診療	71(12)	2209-2214	2008
Takagi T, Naito Y, Mizushima K, Nukigi Y, Okada H, Suzuki T, Hirata I, Omatsu T, Okayama T, Handa O, Kokura S, Ichikawa H, Yoshikawa T	Increased intestinal expression of heme oxygenase-1 and its localization in patients with ulcerative colitis	J Gastroenterol Hepatol	Dec;23 Suppl 2	229-33	2008
Kawamura, YI, Toyota M, Kawashima R, Hagiwara T, Suzuki H, Imai K, Shinomura Y, Tokino T, Kannagi R, and Dohi T	DNA hypermethylation contributes to incomplete synthesis of carbohydrate determinants in gastrointestinal cancer	Gastroenterology	135	142-151	2008
Dohi, T and Kawamura YI	Incomplete synthesis of the Sd(a)/Cad blood group carbohydrate in gastrointestinal cancer	Biochim Biophys Acta	1780	467-471	2008
土肥多恵子, 河村由紀	消化器癌の糖鎖不全現象とエピジェネティックな遺伝子発現制御	医学のあゆみ	225	660-664	2008
Hanai H, Iida T, Takeuchi K, Watanabe F, Yamada M, Kikuyama M, Maruyama Y, Iwaoka Y, Hirayama K, Nagata S, Takai K	Adsorptive Depletion of Elevated Proinflammatory CD14(+)/CD16(+)/DR(++) Monocytes in Patients With Inflammatory Bowel Disease	Am J Gastroenterology	103(5)	1210-16	2008
Hanai H, Iida T, Takeuchi K, Watanabe F, Maruyama Y, Kageoka M, Ikeya K, Yamada M, Kikuyama M, Iwaoka Y, Hirayama K, Nagata S, Sato Y, Hosoda Y	Intensive granulocyte and monocyte adsorption versus intravenous prednisolone in patients with severe ulcerative colitis: an unblinded randomised multi-centre controlled study	Dig Liver Dis	40(6)	433-40	2008
Hanai H	Leucocytapheresis for inflammatory bowel disease in the era of biologic therapy	Eur J Gastroenterol Hepatol	20(7)	596-600	2008
横山貴司, 石川博文, 坂本千尋, 藤井久男, 渡辺明彦	Crohn病の腸管膀胱瘻に対して尿管皮膚瘻を施行した1例	日臨外会誌	70 (1)	213-218	2009
藤井久男, 小山文一, 中川正, 内本和晃, 大槻憲一, 中村信治, 中島祥介	術後pouchitisの診断と治療	消化器内視鏡	20 (8)	1231-1239	2008
藤井久男	Colitic cancer—サーベイランスと外科治療	Gastroenterological Endoscopy	50 (8)	1699-1710	2008
向川智英, 藤井久男, 小山文一, 中川正, 小林豊樹, 児島祐, 内本和晃, 大槻憲一, 中村信治, 中島祥介	潰瘍性大腸炎緩解期に発生した腸管囊腫様気腫症の1例	Gastroenterological Endoscopy	50 (5)	1319-1324	2008
二見喜太郎, 河原一雅, 東大二郎, 紙谷孝則, 成富一哉, 永川祐二, 平野憲二, 富安孝成, 石橋由紀子, 下村保	Crohn病における肛門病変の診断と治療	臨床外科	63(11)	301-307	2008
二見喜太郎, 河原一雅, 東大二郎, 紙谷孝則, 永川祐二, 平野憲二, 富安孝成, 石橋由紀子, 下村保, 新居かおり, 黒木博介, 張村貴紀	Crohn病の肛門病変に対する手術	消化器外科	31(10)	1539-1547	2008
Kitazaki S, Mitsuyama K, Masuda J, Harada K, Yamasaki H, Kuwaki K, Takedatsu H, Sugiyama G, Tsuruta O, Sata M	Clinical trial: comparison of alendronate and alfacalcidol in glucocorticoid-associated osteoporosis in patients with ulcerative colitis	Aliment Pharmacol Ther	29 (4)	424-430	2009
Yamasaki H, Mitsuyama K, Masuda J, Kuwaki K, Takedatsu H, Sugiyama G, Yamada S, Sata M	Roles of high-mobility group box 1 in murine experimental colitis	Mol Med Rep	2 (1)	23-27	2009
Kanauchi K, Oshima T, Andoh A, Shioya M, Mitsuyama K	Germinated barley foodstuff ameliorates inflammation in mice with colitis through modulation of mucosal immune system	Scand J Gastroenterol	43 (11)	1346-1352	2008
Ohkawara T, Mitsuyama K, Takeda H, Asakum M, Fujiyama Y, Nishihira J	Lack of macrophage migration inhibitory factor suppresses innate immune response in murine dextran sulfate sodium-induced colitis	Scand J Gastroenterol	43 (12)	1497-1504	2008

研究成果の刊行に関する一覧（論文）

Araki Y, <u>Mitsuyama K</u> , Nagae T, Tou Y, Nakagawa M, Iwatani Y, Harada M, Ozasa H, Sata M, Noake T	Leukocytapheresis for the treatment of active pouchitis: a pilot study	J Gastroenterol	43 (7)	571-575	2008
<u>Mitsuyama K</u> , Matsumoto S, Yamasaki S, Masuda J, Kuwaki K, Takedatsu H, Nagaoka M, Andoh A, Tsuruta O, Sata M	Beneficial effects of Lactobacillus casei in ulcerative colitis: a pilot study	J Clin Biochem Nutr	43(Suppl .1)	78-81	2008
Kanauchi K, <u>Mitsuyama K</u> , Andoh A	Treatment of ulcerative colitis with fermented barley foodstuff and mechanism of butyrate production by microbiota in vitro	J Clin Biochem Nutr	43(Suppl .1)	82-86	2008
<u>Mitsuyama K</u> , Andoh A, Masuda J, Yamasaki H, Kuwaki K, Takodatsu H, Seki R, Nishida H, Tsuruta O, Sata M	Mobilization of bone marrow cells by leukocytapheresis in patients with ulcerative colitis	Ther Apher Dial	12(4)	271-277	2008
Kanauchi O, <u>Mitsuyama K</u> , Andoh A, Iwanaga T	Modulation of intestinal environment by prebiotic germinated barley foodstuff prevents chemo-induced colonic carcinogenesis in rats	Oncol Rep	20 (4)	793-801	2008
<u>Mitsuyama K</u> , Sata M	Gut microflora: a new target for therapeutic approaches in inflammatory bowel disease	Expert Opin Ther Targets	12 (3)	301-12	2008
光山慶二、佐田通夫	プロバイオテクスを用いた炎症性腸疾患の治療	診断と治療	96 (12)	2549-2554	2008
Nakahara S, Arimura Y, Saito K, Goto A, <u>Motoya S</u> , Shinomura Y, Miyamoto A, Imai K	Association of SLC22A4/5 Polymorphisms with Steroid Responsiveness of Inflammatory Bowel Disease in Japan	Dis Colon Rectum	51(5)	598-603	2008
津谷亮介、本谷 駿、今村哲理ほか	Infliximabが有効であったシクロスポリン抵抗性難治性潰瘍性大腸炎の1例	日本消化器病学会雑誌	105(5)	41-47	2008